

**もう一度聞いて！**

**子どもたちの意見と声**

**「子どもたちにふさわしい世界」に向けた5年間を振り返って**

### 子どもたちの声に耳を傾けるとき

5年前、7千人を超える人々が一同に会して開催された国連子ども特別総会(UNGASS)では、世界の国々が、子どもたちの福祉を向上させることを目指して、一連の目標を達成することを公約しました。誰もが子どもたちを最優先に考え、保護し、その言葉に耳を傾けることに賛成しました。

5年が経過し、これらの目標の達成状況を評価する時が来ました。

ワールド・ビジョンは、子どもたちにフォーカスした人道支援団体として、子どもたちの幸せとその権利の実現に熱心に取り組んでいます。子どもたちは、誰ひとり、空腹であったり、虐待されたり、機会を奪われるべきではありません。したがって、ワールド・ビジョンは、あらゆる活動は、子どもたちが直面する問題を解決することを目指して、行なっています。そして、私たちは、子どもたちの声に耳を傾け、子どもたちが自らの成長に関与できるよう促すことに、全力を注いでいます。

このパンフレットでは、世界中から寄せられた子どもたちの声—自分たち自身の幸せということについて思いをめぐらしている声—を紹介しています。彼らの展望や夢は驚くほど明快であり、私たちが彼らの声に耳を傾けるべきだということを雄弁に語っています。ここでご紹介する子どもたちは、私たち皆にとってより良い世界を実現するために、彼ら自身が果たすべき役割をしっかりと担っています。ですから、政府もまた、そのための役割を果たすべきであると彼らが望むのは、当然のことでしょう。子どもたちに影響を及ぼす問題は、単純ではありません。しかし、子どもたちにふさわしい世界を作っていくことは重要であり、そのために最善を尽くすべきであると、私は考えています。

ワールド・ビジョン・インターナショナル プレジデント ディーン・ハーシュ

2002年、国連子どもに関する特別総会(UNGASS)が開かれ、1990年子どものための世界サミットで出された行動計画に対する進捗をレビューし、新たな行動指針を定めました。評価の結果、子どもたちの権利を保護していく上で、大人の側の嘆かわしいほどの失敗が明らかになりました。目標との深刻なギャップに直面し、UNGASS に参加した180の国は「子どもたちにふさわしい世界」をつくることを公約し、続く10年間に以下の4つの主要課題を定めました。

1. 健康的な生活の促進
2. 良質な教育の提供
3. 虐待、搾取、暴力からの保護
4. HIV／エイズとの闘い

UNGASS では、子どもたちも会議の積極的な参加者として、全ての人にふさわしい世界に関して、以下を含む彼らの展望を打ちたてました

- 子どもの権利を尊重する
- 搾取、虐待、暴力を終わらせる
- 戦争を終わらせる
- 保健医療を提供する
- HIV とエイズを撲滅する
- 環境を保護する
- 貧困の悪循環を終わらせる
- 教育を提供する
- 子どもたちが積極的に参加する

2007年、今までの成果を確かめる時が来ました。

子どもたちは再び、両親、先生、政府指導者、民間セクター、NGO その他に対して声をあげ、「子どもたちにふさわしい世界」という目標・目的を果たすために、みなぎ協力し、その力と資源を最大限に活用するよう求めています。

子どもたちは、世界の指導者の善意と説明責任を信じています。子どもたちは、全ての人にふさわしい世界をつくるために、対等なパートナーになることを誓いました。彼らは正々堂々と主張し、自分たちの声が受け入れられることを求めています。

Page 2:

### **僕／私の話を聞いて**

#### ウィルマー、17、ペルー

あなたは僕の声の響きを知らない。なぜなら、僕は話すのが怖いし、あなたは僕の話を受けないから。

僕の目を見れば、あなたは僕がどんな体験をしているかわかる。

あなたの目は僕を通り過ぎ、僕は感じていることを言えないでいる。

なぜなら、僕が一番怖れていること、それはあなたが僕の話を受けないことだから。

この怖さは僕の魂に到り、僕の無垢な心を壊してしまう。

あなたは、僕の口から出る言葉、心からの言葉にも、耳を傾けない。

でも、世界を変えたいという僕の果てしない願いと望みは、言葉をも越えるのだ。

僕はあなたにもっと良い「今」を求め、僕からはもっと良い「未来」を約束しよう。

ウィルマー・バーガスは、サンチアゴ地区参加型予算のための子どもと青年委員会の委員長で、子どもの権利のための全国委員会における子どもと青年の代表です。彼は、子どもたちが、自分たちのコミュニティに十分に参加し、自分たちの暮らしに関する決定に影響力を働かせる場所をつくるため、積極的に活動しています。彼はまた、特に農村と半農村地区における HIV とエイズの予防にも取り組んでいます。

#### クリステル、17、コンゴ民主共和国

「雨季の間は屋根が雨漏りするので、生徒は学校に行くことができません。一学級の生徒数はとても多いので、ほとんどが教室の中ですし詰め状態です。先生たちのお給料はよくないので、いい働きをしようという気がありません。学校にはレクリエーション活動が用意されていません。」  
クリステルはまた、子どもの虐待についても明言しました。「私は子どもが虐待されているときは、黙っていません！」

クリステル・ビンティ・ルタラは子ども議会のメンバーで、ジェンダーについて声をあげていくことに特に力を入れています。彼女は子どもの権利の擁護者で、性的虐待やあらゆる種類の差別と闘っています。彼女は、自分のコミュニティにおける児童虐待の事例を明らかにし、虐待した人が必ず法の裁きを受けることになるように、尽力しています。

#### ジェイロード、16、フィリピン

「僕は自分の権利について知っているし、そのことについてよく公の場で話します。子どもたちの声には耳を傾けなくてはいいけません。子どもは無垢だから、知恵が宿っています。僕達が意見を主張したり、自分に関する問題について参加する機会が与えられれば、希望と変革をコミュニティにもたらすために、力になることができるでしょう。」

ジェイロード・ランバヤンは、フィリピンの子ども連盟ルソン連合会の議長で、フィリピンの子ども連盟全国連合会の代表も務めています。彼は児童労働と闘い、教育における子どもの参加を促すための活動に励み、民族差別にも取り組んでいます。

#### アリシア、14、ペルー

「私は、政府と地方自治体は子どもの健康についてもっと関心を払い、より多くの資金を提供するとともに、住民や、地域の指導者、そしてワールド・ビジョンのような団体とより連携して活動すべきです。」

アリシア・ヴァレラ・ロサは、ペルーの全国子ども議会のメンバーで、教育やその他必要不可欠な公共サービスへの機会均等を進めるため、献身的に活動しています。

Page 3:

#### リマ・ジョイ、17、フィリピン

「私たちは、子どもたちが自分の権利に対する意識をもっと高めることを目標にしています。私は、地方自治体、NGO、学校や教会が、子どもたちのコミュニティにおける参加を推進するプロジェクトを始めるにあたって、もっと協力関係を強めるように働きかけています。」

リマ・ジョイ・アリンゴは、村の子ども連盟の役員で、全国反貧困会議・子ども部門における州の代表も務めています。彼女は、子どもたちが声を上げ、自分たちの可能性を最大限に活かせるように、力を発揮しています。

#### ディルファザ、14、ウズベキスタン

「(子どもの権利条約は)私たちにとって非常に重要です。なぜならば、子どもたちが尊重され、適切に扱われ、屈辱を受けないよう訴えているからです。子ども議会のメンバーとして、私は自分の権利と義務を知っていますし、自分の人生を左右する決定に関与することができます。私は自分の知識を、まだ自分の権利と義務を知らない仲間に伝えます。私たち皆が、環境保護や子どもの権利を守るための活動などに共に参加しています。権利があるということは、まず責任を負うということでもあります。私は、子ども議会のメンバーに私を選んでくれた子どもたちに対して責任を感じています。」

ディルファザ・サマンドロヴァは、ウズベキスタンの子ども議会のメンバーです。彼女は子どもの権利、特に女子の権利の擁護活動に熱心につとめ、学校で確実に子どもが保護されるよう、力を尽くしています。

## 輝かしい未来

### マード、14、ソマリア

ああ、戦争。

戦争のときは暮らしが失われ、再生しない

動物や財産が壊され、何も得られない

家族は住まいを追われ、教育は貧しい

保健サービスも乏しいし、恐怖ばかりに囲まれている

ああ、平和。

平和のときは暮らしが生まれ、失われるものはない

家畜や財産が、奪われることもない

家族も住まいを失うことはなく、教育は豊かだ

保健サービスは申し分なく、自由と民主主義に取り囲まれている

ああ、教育。

教育は闇の中の光

教育は輝かしい未来への道

教育は人生の成功を導く鍵

マード・イマン・デウバッドはグループの仲間とともに、また、リーダーとして仲間を引っ張りながら、コミュニティの活性化に貢献してきました。マードはまた、子どもたちの問題、平和構築や和解について話し合うコミュニティ会議にも参加し、チャイルド・フレンドリー・スペース(子どもが安心して過ごせる場所)の設置に尽力しました。

### テレサ、16、ケニア

「子どもたちは、親と向き合い自由に話すことが許されるべきです。なぜなら、そうすることによって、親は子どもにとって大切な問題を感じとることができるからです。子どもたちには、めったに遊ぶ時間ありません。男の子達は家畜の世話をし、女の子達は家事全般を片付けますから。しかし教育を通して、未来に希望はあります！」

テレサ・チェプターは、子ども議会のメンバーで、性的虐待、女子と男子の差別、搾取、暴力、児童兵士への勧誘を含むあらゆる形態の虐待にまつわる子どもたちの状況を改善すべく、積極的に活動を進めています。テレサは最近、名誉ある「世界の子ども賞」を授与されました。

Page 4:

### ドロシー、13、ケニア

「結婚のような重要な問題であっても、女の子の父親が、その子のために決めてしまうことがあります。例えば、コミュニティ内の男の人とむりやり娘を結婚させる親が多いのです。これは、父

親の結婚持参金を得たいという思いが原因になっているといえます。もしその女の子が拒めば、両親に激しく叱られることとなります。女の子は実家から遠く離れた場所にも送られることもあります。子どもたちは、この習慣を止めるために、特に早期結婚に関する決定は、自分たちの責任で地方の役所やその所長に報告するべきです。私たちは、世界中の子どもたちを守る法律を執行する必要があります。子どもたちは私たちの未来なのでからこのような法律は重要だし、私たちは未来を守る必要があります。

ドロシー・ボイトは、女子に対する性差別が多いやや田舎の地域に住んでいます。孤児として育ったため、彼女は、健康な暮らしができる手段があること自体が、コミュニティーの人にとっては大きな成果のひとつなのだとわかっています。子ども議会のメンバーで、地区の仲間にとっては先生役でもある彼女は、最も貧しい人を代表しており、周囲の人々は彼女を見て、自分の健康問題についての知識をどうやって得ることができるのか、学んでいます。

#### アルメン、16、アルメニア

アルメニアでは、子ども達が意思決定に参加することなど、ほとんどありません。これは驚くべきことではありません。なぜなら子どもたちは自分の権利について知らないし、自分の考えを提案したり、大人に聞いてもらうなんてことを考えたこともないのです。僕達に関することはすべて、僕達抜きで決められています。でも、まれに例外があります。学校には、黒板がない教室がたくさんあり、子どもたちは木の板に書いていました。僕達は管理課に話をもちかけ、新しい黒板を買うようお願いしました。彼らはそうする資金がないと言ったので、僕達生徒はお金を集め、とうとう黒板を数枚買ったのです。僕達が始めたことが上手くいくと思っていた先生はひとりもいませんでした。これは僕達の小さな勝利です。

アルメン・ステパニアンは仲間の中で子どもの保護に関する問題について意識を高め、子どもの権利を推進する活動に関わってきました。

#### クリスティーナ、17、インドネシア

「私は積極的に、村や隣接する地域の仲間と、子どもの権利に関する知識を分かち合ってきました。私は彼らに、私たちには自分の可能性を広げる権利があり、大都市に住んでいる人々に比べて劣っているわけではないということを伝えています。私は、村の子どもによる自助グループの設立に力を貸してきました。私たちのチームは、子どもの保護を強めることの重要性をもっと人々に意識してもらうために、そして子どもたちの栄養状態を高め、その他子どもに関する問題を改善するために、次々とコミュニティーグループを訪れては、話しをしています。私たちはまた、HIV やエイズの脅威についても人々に警告しています。

クリスティーナ・アオムは、インドネシアの全国子どもフォーラムのメンバーで、虐待や搾取の問題

を訴えるために、子どもたちの自助グループを組織しています。

### サラ、18、レバノン

「私たちの社会では、親が子どもに性的なことについて話すと、子どもがよくない考えに導かれ、ふさわしくないことに目を向けてしまうことになると考えられています。そのため私たちを守るために、親達は口を閉ざしてしまいます。しかし私は今、多くの同年代の子どもたちと同じように、このような沈黙は健康的ではなく、親と子どもの間で、誠実な開かれた話し合いをすることが HIV とエイズに対して最も有効な予防策だと確信しています。

サラ・アジャミは、レバノンにおいて、子どもの権利に対する意識を高める活動に積極的に関わっており、子どもへの暴力に関する国連調査の全国・地域の協議会に参加しました。

ここで紹介された子どもたちは、全ての人にふさわしい世界が実現するために、自分たちが必要だと考えることを積極的に追求しています。自分たちの家、学校そしてコミュニティで、彼らは自分の権利が侵害されていると声を上げ、自分や仲間が毎日直面する問題に対する解決策を、主体的に追いつめています。彼らは自分の役割を果たしているのであって、国連子どもの権利条約を批准した193の国と「子どもにふさわしい世界」を公約に掲げた180の国に対して、その義務を果たすことを求める権利を有しています。

彼らの声は届くのでしょうか？大人たちは自らの役割を果たすのでしょうか？10年を経て再びこの問いに立ち返る時に、またしても子どもたちに対して失敗を犯すことのないようにしましょう。5年間の進捗を再検討することで、今こそ、私たちみんなにとって本当にふさわしい世界を実現するため、必要な資源を投じ、政治的意志を発揮する時です。

2007年のUNGASS+5記念行事へのワールド・ビジョン代表団の派遣と、このパンフレット出版のため資金は、次のワールド・ビジョン事務所が提供しました。

ワールド・ビジョン・イギリス  
ワールド・ビジョン・スイス  
ワールド・ビジョン・フィンランド  
ワールド・ビジョン・カナダ  
ワールド・ビジョン・オーストラリア  
ワールド・ビジョン・アジア太平洋地域  
ワールド・ビジョン・インターナショナル事務所